

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

9月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,546.10 (4日)	1,485.30 (30日)
国内建値(円/g)	: 5,325 (5日)	5,171 (10日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 106.93 (4日)	109.43 (19日)

9月の海外金相場は、2日に\$1,523.35/toz(トロイオンス)と\$1,500台を保ってスタート、4日には\$1,546.10と前月の月間最高値を上回って、2013年4月以来の高値となった。外国為替市場でドルが対円やユーロで下落し、ドルの代替投資先とされる金に買いが優勢となったことによる。しかし、その後はドルが他の主要通貨に対し、反発基調を強めたため、金価格は\$1,500前後で軟調推移となった。この間、原油やイランに関連した中東での地政学的リスクの高まりから、価格水準を切り上げる場面がみられたものの、すぐに貿易面での米中緊張の緩和感など金価格を下押しする材料なども出て、方向感の定まらぬ小刻みな動きが続いた。ところが、下旬入りすると、サウジアラビアの原油供給懸念の再発や米中貿易交渉での長引く対立などから、小じっかりとした値動きとなった。25日には再び\$1,530水準まで引き上げられたが、その後は米利下げ観測の後退によるドル高基調等から続落、\$1,500台を割り込み、30日には\$1,485.30をつけて越月した。

9月の国内の金山元建値は前月に引き続き上昇、5日には5,325円/g(グラム)と月間最高値をつけるとともに、1980年2月以来の高値となった。

2. 為替相場推移

9月の為替相場は、2日に\$1=107.14円(TTS相場、以下同じ)と円高基調でスタート、4日には米景気の先行き懸念から「低リスク通貨」とされる円を買いドルを売る動きが先行したことで、\$1=106.93円をつけ前月末以来の円高・ドル安水準となった。その後、中旬にかけては、徐々にドルが円に対して戻し、\$1=108円水準から\$1=109円水準での展開となった。これは米中貿易交渉の進展期待や、欧州中央銀行(ECB)の金融緩和策の発表などを受けて投資家が運用リスクをとりやすくなり、「低リスク通貨」の円やユーロが売られたからであった。

ところが、連休明けの 23 日になると、19 日に日銀が金融政策決定会合で大規模金融緩和政策の現状維持を決めたこと、さらには米中貿易交渉や欧州経済の先行き不透明感から「低リスク通貨」とされる円に買いが先行したことで、再び円高基調が復活した。25 日には\$1=108.11 円をつけたが、その後月末にかけては、米中貿易協議を巡る過度な警戒感が和らぎ、ややドルが戻す格好となった。30 日には米利下げ観測が後退したことでドルが買われ、30 日は\$1=108.92 円まで円が下げて越月した。

9 月の円の対ユーロでの動きは、ECB が金融緩和策を強めるとの観測から、4 日に€1=117.77 円水準へ円が上昇し、2016 年 11 月以来の円高・ユーロ安となった。その後、一旦はユーロが€1=120 円水準へ大幅に戻すも、月末にかけては再び€1=119 円水準での展開となった。

【国内】

1. 建値推移

9 月の国内金山元建値は 1 日に 5,235 円/g(グラム)の高値でスタート、5 日には 5,325 円と月間最高値をつけるとともに、前の月と同じく 1980 年 2 月以来の高値となった。その後すぐに、5,171 円(10 日)まで下げて月間最安値をつけたが、中旬にかけては立ち直り、海外相場の高値圏での小浮動推移と円安基調が重なったことで、ほぼ 5,200 円台前半を保ちながら推移した。月末は海外相場が急落したものの、30 日には 5,213 円と 5,200 円台をкаろうじて守りながら越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2019 年 8 月分=令和元年 8 月分)

生産	: 7,946 kg	(前月比 15.1%減、前年比 23.6%減)
出荷	: 8,071 kg	(前月比 11.6%減、前年比 17.7%減)
在庫	: 4,338 kg	(前月比 2.8%減、前年比 19.6%減)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

8 月の生産は前月比、前年同月比とも減で、前年同月比は 7 か月連続のマイナス。出荷は前月と同じく、価格の上昇基調から 3 か月連続の前月比減。前年同月比も生産と同じく、7 か月連続の減。こちらは二桁減が 6 か月連続。在庫も前月比、前年同月比とも減。前年同月比は 7 か月連続の減。

銅

【海外】

2019 年 9 月の LME 銅相場は米中貿易戦争や中国、EU の景気指標などを材料に

前月に引き続き\$5,600～5,800/t 圏を低迷推移した。

米中貿易戦争は 1 日、米国が対中制裁関税第 4 弾を、中国も報復関税を発動した。これを受けて、銅相場は 3 日に\$5,537/t と年初来最安値をつけた。米国は 1,100 億ドル相当の中国製品に 15%の関税を上乗せした。12 月 15 日には 1,600 億ドル相当に 15%追加する。さらに、第 1～3 弾の対象製品 2,500 億ドル分の税率を 25%から 30%に引き上げ、10 月 15 日から実施する。中国も 750 億ドル相当の米国製品に 5～10%追加し、9 月 1 日と 12 月 15 日に分けて実施する。

中国経済は 8 月の工業生産がリーマンショック直後の 2009 年 1～2 月以来の低い伸び率に鈍化した。また、9 月の製造業景気指数(PMI)は 5 か月連続で 50 を割り込んだ。こうしたなか、中国人民銀行は市中銀行の預金準備率を 0.5%pt 引き下げた。

EU の第 2 四半期 GDP 成長率は前期比 0.2%と伸び率が第 1 四半期から半減した。これを受け、欧州中央銀行(ECB)は 2018 年 12 月に打ち切った量的緩和を再開し、11 月から 200 億ユーロのペースで国債などを買い入れる決定を下した。ECB への預金金利も 0.5%から 0.4%に引き下げた。ドラギ総裁は極めて緩和的な政治姿勢が必要になると強調した。

米連邦準備制度理事会(FRB)もフェデラルファンド(FF)金利を 25%pt 引き下げ 1.75～2.00%とした。利下げは 7 月に続き今年 2 回目。パウエル議長は米中貿易戦争が世界経済に影響を及ぼしていると指摘した。

英国の EU 離脱(ブレグジット)をめぐることは、英議会在 EU からの離脱延期を政府に求める法案を可決した。10 月 19 日までに新たな離脱案が英議会で承認されなければ 10 月末から 2020 年 1 月末への離脱延期を EU に申請するよう政府に義務づける内容。これに対してジョンソン首相は総選挙実施を提案したが、必要な賛成を得られなかった。

9 月 14 日はサウジアラビアの石油施設が無人機の攻撃を受け、同国の産油量の半分、世界の供給量の 5%以上に当たる生産が停止した。これを受け、NYMEX 原油先物は一時\$63.34/bbl.と 4 か月ぶりの高値をつけたが、サウジ当局は 2～3 週間以内にフル生産を回復する見通しを示したため反落した。

供給障害要因としては、ペルー全国鉱山金属鉄鋼労組連合(FNTMMSP)は 9 月 10 日、政府の労働改革計画に抗議して無期限ストライキを開始した。しかし、各鉱山は正常に操業しており、ストライキは失敗した。2017 年のストライキも限定的な影響にとどまった。

ペルー環境評価監督庁(OEFA)はミネララスバンバスに対し銅精鉱の輸送ルートの一部についてルート変更を命じた。OEFA と地域社会による環境アセスメントの結果、運搬トラックの影響による大気、騒音、土壌、水質などの環境基準違反が判明した。市街地道路での粉塵防止対策に加え、国道 135 号線のヴェリリエ～カパマルカ間は 6pm～5am の通行が禁止され、OEFA が環境汚染状況を常時監視する。地元又

エバフエラバンバ住民は同社がラスバンバス鉱山開発協定に違反したとして、今年2月18日から68日間、国道135号線を封鎖した。

アランチックカパーのウエルバ銅製錬所(スペイン)が電気炉の故障のため40%操業にとどまっていることが9月3日判明した。このため、銅精鉱の受け入れを40%削減し、硫酸出荷に不可抗力条項を発動した。銅カソード生産はアノード在庫の取り崩しにより影響を受けていない。

スターライトカパーはツーチコリン銅製錬所(インド)で冷却塔とパイプダクトが倒壊したため、地元州政府に改修工事の承認を要請した。同製錬所は昨年3月、定修工事のため閉鎖され、その後、環境汚染に抗議する地元住民の暴動が発生したことを受けて、5月に州政府から閉鎖命令が下された。操業停止長期化のため、設備の劣化が進んでいる。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2019年1~6月の世界の銅鉱石生産は前年同期比1.4%減の9,919千t、地金生産は1.1%減の11,740千t、消費は11,960千tで横ばい、地金需給バランスは▲177千tから▲220千tへと引き続き供給不足で推移した。報告在庫は20.8%減の1,244千t、在庫/消費比率は3.1週間から2.5週間へと低水準で推移している。

鉱石生産の内訳は精鉱が1%、SXEWは3.5%減少した。国別にはチリが鉱石品位低下を主因に2.5%減少、インドネシアはグラスベルグ、バツーヒジャウ鉱山の採掘鉱体の移行に伴う一時的な減産により55%減少した。コンゴ民主共和国(DRC)、ザンビアは休止鉱山の再開が一部鉱山の減産に相殺されて横ばいとなった。ペルー、オーストラリア、中国、モンゴルは鉱石品位の改善や前年の供給障害による減産の反動で増加した。地域別には、北米が2%、オセアニアは7%増加したが、アフリカは横ばい、アジアは6%、ラテンアメリカは1%、ヨーロッパは3%減少した。鉱山稼働率は81.6%から80.2%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産が1.5%減少、二次生産は1%増加した。国別には、チリがチュキカマタ製錬所の環境改善工事に伴う操業停止により38%減少した。インドはツーチコリン製錬所が2018年4月から操業を停止していることにより33%減少。ザンビアは電力供給途絶、製錬所の操業トラブルに加え、2019年1月1日付で銅精鉱に輸入関税(5%)が導入されたことなどから28%減少した。その他主要生産国では日本、ペルー、米国、ヨーロッパの一部が定修閉鎖のため減少。中国は能力増強を背景に増加。オーストラリア、ブラジル、イラン、ポーランドは前年の供給障害による減産の反動から増加した。地域別には、アジアが2%、オセアニアは15%増加したが、アフリカは9%、アメリカは10%、ヨーロッパは1%減少した。精製工場の稼働率は86.6%から83.2%に低下した。

中国はネット輸入が16%減少したが、見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は生産増の影響で3%増加した。その他主要消費国のなかではインド、台湾が増加、

EU、日本は減少した。中国を除く世界は3%減少した。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

8/26 640 9/5 650 9/10 660 9/13 670 9/25 660

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2019年8月分=令和元年8月分)

生産 : 129,300t (前月比 3.4%増、前年比 4.2%減)

出荷 : 118,700t (前月比 13.1%減、前年比 8.3%減)

在庫 : 105,500t (前月比 11.1%増、前年比 1.7%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019年8月の銅地金生産は前月比3.4%増、前年同月比4.2%減の129.3千tと、それぞれ3か月ぶりの増加、7か月連続の減少となった。出荷は前月比13.1%減、前年比8.3%減の118.7千tと前年8月以来の低水準で、それぞれ2か月連続と2か月ぶりの減少となった。内訳は内販が前月比17.6%減、前年比3.2%減の69.7千tと、ともに2か月連続の減少で2017年8月以来の低水準。輸出は前月比5.9%減、前年比14.7%減の49.0千tで、それぞれ2か月連続と2か月ぶりの減少。内販のうち電線向けは前年比1.3%増の47.5千tで3か月連続の増加。伸銅品向けは11.3%減の20.5千tで5か月連続の減少。在庫は前月比11.1%増、前年比1.7%増の105.5千tで、それぞれ3か月ぶり、2か月ぶりの増加となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、2019(令和元)年8月の銅電線出荷は前月比16.5%減、前年同月比3.4%減の53.2千t(推定)と前年比は再び減少に転じた。うち内需は前年比4.0%減の51.6千tで2か月ぶりの減少、輸出は24.6%増の1.6千tで5か月ぶりの増加。内需の部門別には、自動車が11か月連続、電力は3か月ぶりの増加、電気機械は12か月連続、その他内需と通信は2か月ぶり、建設電販は11か月ぶりの減少となった。

日本伸銅協会によれば、2019(令和元)年8月の伸銅品生産は前年同月比10.8%減の53.5千t(速報)と9か月連続の前年比減。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が11.6%減、自動車端子向けの黄銅条は11.8%減でともに7か月連続の減少となった。コネクタ向けの青銅板条は23.0%減で13か月連続の減少、エアコン向けの銅管は2.3%減と再び減少に転じた。

鉛

【海外】

2019年9月のLME鉛相場は米中貿易戦争や中国、EUの景気指標などを材料に前月に引き続き\$2,000~2,100/t圏を頭重く推移した。

米中貿易戦争は1日、米国が対中制裁関税第4弾を、中国も報復関税を発動した。米国は1,100億ドル相当の中国製品に15%の関税を上乗せした。12月15日には1,600億ドル相当に15%追加する。さらに、第1~3弾の対象製品2,500億ドル分の税率を25%から30%に引き上げ、10月15日から実施する。中国も750億ドル相当の米国製品に5~10%追加し、9月1日と12月15日に分けて実施する。

中国経済は8月の工業生産がリーマンショック直後の2009年1~2月以来の低い伸び率に鈍化した。また、9月の製造業景気指数(PMI)は5か月連続で50を割り込んだ。こうしたなか、中国人民銀行は市中銀行の預金準備率を引き下げた。

EUの第2四半期GDP成長率は前期比0.2%と伸び率が第1四半期から半減した。これを受け、欧州中央銀行(ECB)は2018年12月に打ち切った量的緩和を再開し、国債などを買い入れ、預金金利を引き下げた。ドラギ総裁は極めて緩和的な政治姿勢が必要になると強調した。

米連邦準備制度理事会(FRB)も7月に続き2回目の利下げを実施した。パウエル議長は米中貿易戦争が世界経済に影響を及ぼしていると指摘した。

英国のEU離脱(ブレグジット)をめぐることは、英議会在離脱時期の10月末から2020年1月末への延期をEUに申請するよう政府に義務づける法案を可決した。これに対して、ジョンソン首相は総選挙実施を提案したが、必要な賛成を得られなかった。

9月14日はサウジアラビアの石油施設が無人機の攻撃を受け、同国の産油量の半分、世界の供給量の5%以上に当たる生産が停止した。これを受け、NYMEX原油先物は一時\$63.34/bblと4か月ぶりの高値をつけたが、サウジ当局は2~3週間以内にフル生産を回復する見通しを示したため反落した。

供給障害要因のうち、ニルスターは8月24日、ポートピリー鉛製錬所(豪)の焼結プラントを暫定的に再開し、26日に焼結鉱の生産を開始した。同製錬所は8月3日、溶鉱炉の故障のためTSL炉を閉鎖した。TSL炉閉鎖による生産損失を補填するため、大気排出基準の遵守を条件に焼結プラントの再開が許可された。同製錬所は5月28日、溶鉱炉の故障のためTSL炉の操業も停止したが、7月末に再開した。その後、TSL炉が故障し、8月9日付で製品販売、原料購入に不可抗力条項を発動した。

一方、ニューモントゴールドコープは9月16日、ペナスキート金鉛亜鉛鉱山(メキシコ)が生産を停止したと発表した。下請け運送業者や地元住民が15日、雇用、地下水枯渇、環境汚染などに抗議して鉱山アクセス道路を封鎖した。この前日、同社と

地元政府は道路封鎖解除に合意していた。同社は住民への補償金の支払い、抗議活動に対する刑事告訴の取り下げ、解雇従業員の再雇用、下請け運送会社との再契約などを約束した。水源インフラの整備についても検討する。同鉱山は5～6月にかけて80日間に及ぶ同様の抗議活動に見舞われた。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年1～7月の世界の鉛鉱石生産は2,668千t、地金生産は6,626千t、消費は6,673千tでいずれも前年同期比横ばい、地金需給は前年同期の▲35千tから▲47千tへとほぼバランス推移している。7月末の地金の報告在庫は前年同月比10.9%減の381千t、在庫/消費比率は1.9週間から1.7週間に低下した。

鉱石生産はアメリカが3.4%、オセアニアは7.8%、ヨーロッパは3.5%、アフリカは3.4%増加、アジアは2.0%減少した。地金生産はヨーロッパが1.2%、アフリカは5.5%増加、アジア、アメリカは横ばい、オセアニアは18.9%減少した。消費はアジアが2.4%、ヨーロッパは1.2%、オセアニアは11.1%増加、アメリカは4.9%、アフリカは1.4%減少した。

中国は鉱石生産が3.6%減の1,134千t、鉛精鉱のネット輸入は43.7%増の503千t、地金生産は6.4%増の2,686千t、地金のネット輸入は452.9%増の94千t。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は1.3%増の2,731千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

8/1 278 8/9 282 8/23 285 9/2 281 9/11 286 10/1 289

9月はLME鉛相場が\$2,000/t台での小動きだったことで、鉛建値も280千円/t台で小じっかりした動きに終始した。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年8月分=令和元年8月分)

生産 : 17,725t (前月比 3.2%減、前年比 1.7%増)

出荷 : 13,415t (前月比 29.9%減、前年比 10.9%減)

在庫 : 18,066t (前月比 30.4%増、前年比 17.1%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

8月の生産は前月比減だが、前年同月比は2か月連続の増。出荷は予想通り、ユーザーの夏期休業から3か月ぶりの前月比減、前年同月比も6か月ぶりのマイナス。両方とも二桁減。これは2015年5月の12.8千t以来の低水準。9月は元のレベルに戻る見込み。在庫は出荷減から3か月ぶりの前月比増、前年同月比も2か月連続の増。

3. 需要部門動向

7月の自動車生産台数は前年同月比11.8%増の896,906台となり、再び前年同月を上回った。乗用車は前年同月比2か月ぶりのプラス、トラックも同2か月ぶりのプラス、バスも2か月ぶりのプラス、すべての車種が前の月とは対照的に上昇傾向を見せた。

8月の自動車輸出台数は前年同月比5.9%増の349,518台となり、4か月ぶりに前年同月を下回った。

一方、7月の二輪車生産台数は前年同月比7.0%減の48,727台と8か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会の調査によると、7月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を合わせた総合計で2,014千個(前年同月比5%増)と再び上昇、自動車用以外の鉛蓄電池も645千個(同3%増)と12か月ぶりに増加した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,659千個(同5%増)と3か月ぶりに上昇した。

鉛関連製品生産統計

		6月	7月
自動車	数量(台)	810,188	896,906
	前年同月比(%)	98.5	111.8
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	16,224	17,269
	前年同月比(%)	95.3	96.5

(出所: (一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2019年9月のLME亜鉛相場は米中貿易戦争や中国、EUの景気指標などを材料に前月に引き続き\$2,200~2,300/t圏を頭重く推移した。

米中貿易戦争は1日、米国が対中制裁関税第4弾を、中国も報復関税を発動した。米国は1,100億ドル相当の中国製品に15%の関税を上乗せした。12月15日には1,600億ドル相当に15%追加する。さらに、第1~3弾の対象製品2,500億ドル分の税率を25%から30%に引き上げ、10月15日から実施する。中国も750億ドル相当の米国製品に5~10%追加し、9月1日と12月15日に分けて実施する。

中国経済は8月の工業生産がリーマンショック直後の2009年1~2月以来の低い伸び率に鈍化した。また、9月の製造業景気指数(PMI)は5か月連続で50を割り込

んだ。こうしたなか、中国人民銀行は市中銀行の預金準備率を引き下げた。

EU の第 2 四半期 GDP 成長率は前期比 0.2%と伸び率が第 1 四半期から半減した。これを受け、欧州中央銀行(ECB)は 2018 年 12 月に打ち切った量的緩和を再開し、国債などを買い入れ、預金金利を引き下げた。ドラギ総裁は極めて緩和的な政治姿勢が必要になると強調した。

米連邦準備制度理事会(FRB)も 7 月に続き 2 回目の利下げを実施した。パウエル議長は米中貿易戦争が世界経済に影響を及ぼしていると指摘した。

英国の EU 離脱(ブレグジット)をめぐることは、英議会在離脱時期の 10 月末から 2020 年 1 月末への延期を EU に申請するよう政府に義務づける法案を可決した。これに対して、ジョンソン首相は総選挙実施を提案したが、必要な賛成を得られなかった。

9 月 14 日はサウジアラビアの石油施設が無人機の攻撃を受け、同国の産油量の半分、世界の供給量の 5%以上に当たる生産が停止した。これを受け、NYMEX 原油先物は一時\$63.34/bbl.と 4 か月ぶりの高値をつけたが、サウジ当局は 2~3 週間以内にフル生産を回復する見通しを示したため反落した。

供給障害要因としては、ニューモントゴールドコープは 9 月 16 日、ペナスキート金鉛亜鉛鉱山(メキシコ)が生産を停止したと発表した。下請け運送業者や地元住民が 15 日、雇用、地下水枯渇、環境汚染などに抗議して鉱山アクセス道路を封鎖した。この前日、同社と地元政府は道路封鎖解除に合意していた。同社は住民への補償金の支払い、抗議活動に対する刑事告訴の取り下げ、解雇従業員の再雇用、下請け運送会社との再契約などを約束した。水源インフラの整備についても検討する。同鉱山は 5~6 月にかけて 80 日間に及ぶ同様の抗議活動に見舞われた。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019 年 1~7 月の世界の亜鉛鉛石生産は前年同期比 2.5%増の 7,465 千t、地金生産は 2.0%増の 7,752 千t、消費は 1.2%増の 7,858 千t、地金需給バランスは前年同期の▲170 千tから▲106 千tへと供給不足幅がやや縮小した。7 月末の地金の報告在庫は前年同月比 16.3%減の 918 千t、在庫/消費比率は 7.7 週間で横ばいとなった。

鉛石生産はオセアニアが 40.2%、アフリカは 35.1%増加、ヨーロッパは横ばい、アジアは 1.7%、アメリカは 3.4%減少した。地金生産はアジアが 3.9%、アメリカは 1.1%、アフリカは 43.2%増加、ヨーロッパは 3.0%、オセアニアは 5.0%減少した。消費はアジアが 1.8%、アメリカは 3.8%、アフリカは 11.8%増加、ヨーロッパは 3.1%、オセアニアは 6.7%減少した。

中国は鉛石生産が 2,435 千tで横ばい、亜鉛精鉛のネット輸入は 3.4%減の 776 千t、地金生産は 6.2%増の 3,424 千t、地金のネット輸入は 15.7%増の 346 千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は 2.1%増の 3,666 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

8/1	316	8/6	295	8/9	292	8/19	286	8/26	283	9/2	286
9/5	298	9/12	307	9/25	298	10/1	313				

9月はLME 亜鉛相場が概ね\$2,300/t 台で推移したことから、亜鉛建値も300千円/t前後で底堅い値動きに終始した。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年8月分=令和元年8月分)

生産	:	42,987t	(前月比 39.0%増、前年比 14.9%増)
出荷	:	40,935t	(前月比 0.9%減、前年比 0.2%減)
在庫	:	64,744t	(前月比 3.3%増、前年比 2.5%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

8月の生産は飯島、安中両製錬所の夏期定修明けにより前月比、前年同月比とも二桁増。しかし、定修明けにもかかわらず、42千t台と低水準。出荷は8月もユーザーの夏期休業により低迷状況から抜け出せず、前月比、前年同月比とも減。前年同月比は6か月連続のマイナス。内販の減を若干の輸出増で一部相殺している。銅同様、消費増税前の駆け込み需要は見られず。在庫は出荷減から2か月ぶりの前月比増だが、前年同月比は11か月連続の減。

3. 需要部門動向

8月の鉱工業生産指数は前月比1.2%減、前年同月比4.7%減の101.5(季節調整済、2015年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は2か月ぶりの低下、前年同月比も同じく2か月ぶりに低下した。中国向けの輸出品目が引き続き低調だったほか、台風の影響で一部が減産となった。経産省は生産の基調を「一進一退」から「このところ弱含み」に下方修正した。

生産指数の業種別では、15業種中12業種で低下した。最も下落寄与が大きかったのが鉄鋼・非鉄金属で前月比4.7%低下した。8月に発生した台風の影響で出荷できず、九州地方を中心に減産した企業が出た。生産用機械は中国向けのディスプレイ製造装置の生産が減り同2.6%低下した。自動車は工場の稼働日が少なく同1.1%低下した。

8月の出荷指数は前月比1.4%減の101.1と2か月ぶりに低下、前年同月比も4.6%減と同じく2か月ぶりに低下した。

一方、在庫指数は前月比±0.0%の104.5、在庫率指数も前月比2.8%増の110.5となった。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、9月が前月比1.9%の上昇、10月は同0.5%の低下を見込んでいる。

7月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比7か月連続の減となり、低迷状態のまま。

7月の伸銅品生産量は66,902t(確報値、以下同じ、対前年同月比▲3.9%)、(対前月比+3.2%)、対前年同月比は8か月連続のマイナス(5月▲9.0%、6月▲8.0%)。全14品種中、対前年比プラスは5品種。

黄銅製品では、黄銅条が8,318t(対前年比▲11.1%)、6か月連続の対前年比マイナス。民生用コネクタ等が中国、東南アジアで低調。黄銅棒は15,454t、7か月ぶりの対前年比プラス(対前年比+0.5%)。住宅設備機器関連は、消費税や東京五輪関連需要にも目立った動きは見られず、低調横這いで推移している。

亜鉛関連製品生産統計

		6月	7月
亜鉛めっき鋼板	数量(千t)	812	833
	前年同月比(%)	91.9	96.2
黄銅製品	数量(t)	26,322	27,095
	前年同月比(%)	89.7	94.3
亜鉛ダイカスト	数量(kg)	1,523,359	1,554,004
	前年同月比(%)	88.1	92.9
亜鉛華	数量(t)	5,687	5,535
	前年同月比(%)	102.4	95.8

(出所:(一社)日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査)